

饒（はなむけ）の言葉

卒業式の「饒の言葉」で紹介した「難」を題材にしたテンポの良い言葉です。

「難がなければ無難（ぶなん）な人生」
「難があれば苦難（くなん）の人生」
「難あればこそ有り難し（ありがたし）」



私たちが生きていくと「苦しい」「困った」と感じることは多いです。そして、できればその「苦しい」「困った」状況からは逃げたくなるものです。この「困った」「苦しい」の言葉に「難」という漢字一字をつけると「困難」「苦難」という字になり、なお、**避けたい気持ち**が強くなります。

この難がなければ、「難（なん）」が「無い（ない）」で「無難」という字になります。我々は、できれば**「無難」な人生を望んでしまいます**。

しかし、「難」は、**それを乗り越えた先の未知なる自分、まだ会えていない成長した自分に会えることに繋がる**のではないのでしょうか。また、「難」を経験するからこそ**「無難」や難がない人生の良さを感じ得る**のではないのでしょうか。

そう考えると、「難」があることは悪いことばかりではなく、**「難」が有ること**も大切だと感じさせられます。「有」（ある）「難」（なん）と書いて、「**有難い**」とすることもできるのではないのでしょうか。

卒業生の皆さん、きっと皆さんを待っている世界では、皆さんが「困った」「苦しい」などと感じる「難」が沢山あると思います。しかし、「難」と感じるがあったときは、**自分が成長するためのチャンスと捉え、「有り難い」とニヤリと笑って「難」に挑んでください**。

あらこう散歩

3月4日（土）全日制課程・第58回卒業式を挙行了しました。当日は、都議会議員、同窓会長、PTA会長の来賓とともに、多くの保護者に見守られ3年生90名が卒業していきました。

卒業生は3年前、未知なるコロナウイルスが猛威を振るい、緊急事態宣言が発令されるなど、当たり前前の日常が制限される中、本校に入学してきました。これまで、様々な体験的活動や学校行事を中止や制限実施してきたことで、皆さんの成長を心配していました。



しかし、**卒業式では清新かつ厳粛な雰囲気の中、見事に卒業式を作り上げられました**。3年生はもちろん、1年生、2年生の姿も素晴らしかったです。特に、**2年生は最上級生としての準備ができていると感じられる態度であった**と思います。**荒工生は「やればできる」「すごい」と本当に思いました**。

来賓の皆様からも「**厳粛な式でした」「緊張の中良い式でした**」とお褒めいただきました。**「未来を創る！彩る！荒川工業」**